

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：33605

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K12491

研究課題名（和文）避難を余儀なくされた療養者に対する災害時相互協力を用いた看護支援モデルの構築

研究課題名（英文）Building a nursing support model using mutual cooperation during disasters for victims forced to evacuate.

研究代表者

齋藤 正子（Saito, Masako）

清泉女学院大学・看護学部・准教授

研究者番号：30738232

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、災害関連死の低減を目指し、災害時相互協力を用いた全災害サイクルに関わる在宅療養者のニーズに対応できる訪問看護師の人材育成のためのシステムを構築することである。災害時の看護支援者モデルについては、東日本大震災にて被災した訪問看護ステーションから研究協力を得て、アクションリサーチを用いて、実践・検証を行った。訪問看護ステーションの災害対策の冊子「東日本大震災（3.11）の教訓を活かした訪問看護の知恵袋（水害&COVID-19等感染症バージョン）」を作成した。希望する全国の訪問看護ステーション、地域包括支援センター、日本災害看護学会等にて冊子を配布した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の研究成果の学術的意義や社会的意義は、災害関連死の低減を目指した人材を育成に関する研究を行ったことである。構築した災害時の看護支援者モデルは、災害サイクルのどの時期においても活用できることが示唆された。また、研究成果として作成した訪問看護ステーションの災害対策の冊子「東日本大震災（3.11）の教訓を活かした訪問看護の知恵袋（水害&COVID-19等感染症バージョン）」は、全国に配布し、災害対策マニュアルやBCPの一助に繋がった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to aim to reduce disaster-related deaths, and based on the nursing support model that has been developed so far, we will conduct home visits that can respond to the needs of home care workers involved in the entire disaster cycle using mutual cooperation during disasters. The aim is to build a system for human resource development of nurses. We obtained research cooperation from visiting nursing stations that were affected by the Great East Japan Earthquake, and used action research to put into practice and verify the nursing support model for disaster situations.

We have created a disaster preparedness booklet for visiting nursing stations called "Proof of Visiting Nursing Lessons Learned from the Great East Japan Earthquake (3.11) (Flood Damage & New Coronavirus Infection Edition)."

Upon request, we distributed it to visiting nursing stations, regional comprehensive support centers, and the Japanese Society of Disaster Nursing nationwide.

研究分野：災害看護学

キーワード：訪問看護ステーション 災害 支援者モデル 人材育成 知恵袋

様式 C - 19, F - 19 - 1 (共通)

研究課題名:

避難を余儀なくされた療養者に対する災害時相互協力を生かした看護支援モデルの構築

## 1. 研究開始当初の背景

東日本大震災から5年が経過し、現在も避難を余儀なくされている被災者は約13万8千人である(2016.10.復興庁)。また、震災関連死は3,467人(2016.3.復興庁)であり、震災関連死数は弔慰金認定者数であることから実数は増加すると考えられる。災害発生時には地域包括ケアシステムを用いて、地域で生活する療養者の身体的状態や日常生活動作、精神活動、そして介護者の状態を考慮した支援活動を行うことで震災関連死の低減につながると考えている。

震災関連死の対応については、災害発生時に避難所における住民が行う要援護者トリアージを開発し、避難所の部屋割りの判定基準を用いること<sup>1)</sup>や被災者健康支援や高齢者見守りなど、ネットワークづくり支援地域コミュニティ復興支援など<sup>2)</sup>などが報告されている。さらに、被災者の健康支援に取り組んでいる。被災地の訪問看護師の命を守る活動は重要であり、災害時要援護者に含まれる在宅療養者の施策として、東京都福祉保健局の「災害時要援護者への災害対策推進のための指針」によると『在宅療養者については、通常の避難や避難所での生活が困難な場合が想定されるため、状況に応じて在宅で災害を乗り切るための支援を含めた計画とする必要がある。』と示されている。

本研究の研究对象者は、避難生活を余儀なくされた在宅療養者を支援する訪問看護師である。被災地の訪問看護師は、東日本大震災の教訓を活かし、サービス担当者会議に災害時の検討会を行い、平時から備えや大災害時の効率的な安否確認の方法、情報の集約と共有方法など<sup>3)</sup>の取り組みを行っていた。しかし、その取り組みはステーション単位で行われており、内容はさまざまであり、質の担保(内容の統一等)が必要である。

さらに東日本大震災のような大規模災害だけではなく、局所災害となった2016年4月に発生した熊本地震や同年10月発生の鳥取県地震による災害により、現在も避難生活を余儀なくされている被災者がいるため、様々な災害の規模に対応できる看護支援者モデルが必要である。そこで本研究では、構築してきた看護支援者モデルを研究の基盤とし、大規模から小規模の災害・全ての災害サイクルにおいて被災者のニーズに対応できる訪問看護師の人材育成を行い、震災関連死を低減することを目的とした。

この研究を実践・検証するにあたり、プロトコルとして災害時に訪問看護ステーション同士が支え合うネットワークづくり「災害時相互協力協定」<sup>4)</sup>を平時から締結して災害時に備えたいと考える。この取り組みは、仙台市福住町などの全国の地区単位で行われている。しかし、訪問看護ステーション同士の支え合う災害時の支援ネットワークシステム<sup>5)</sup>の取り組みが報告されているが、県内や市町村地域のみでの取り組みのため、災害は被災規模が予測できないことを考慮すると締結する地域を限定しないことが効果的であると考えられる。

これらのことから構築した災害時の看護支援者モデルを活用し、被災した訪問看護ステーション同士または被災地外の訪問看護ステーションが支え合う「災害時相互協力」を構築させる。この取り組みは全国初であり、東日本大震災のような大規模広域災害時の「公助の限界」が明らかとなり、自助・共助による「ソフトパワー」が重要となる<sup>6)</sup>ことに対応した訪問看護ステーションのネットワーク作りである。

<引用文献>

- 1) 小原真理子, 齋藤正子他: 災害発生時、避難所における住民による要援護者の部屋割りトリアージの取り組み。日本災害復興学会誌 復興 通巻 第10号 (Vol.6 No.1) 2014
- 2) 小野久恵: 大災害時でも避難者のケアを構築できる地域ネットワークを構築: 看護, 2015.3
- 3) 遠藤幸男: 福島原発事故による健康影響の状況 2) 避難所・仮設住宅などでの健康被害状況とその対

応一衛生・栄養・要介護などを含むー：PROGRESS IN MEDICINE 35(5): 805-809, 2015.

- 4) 菅原康夫：仙台・福住町方式 減災の処方箋：新評論，2015
- 5) 片平伸子：訪問看護ステーションにおける災害時の相互支援ネットワークを目指した実践報告書：  
<http://repository.niigata-cn.ac.jp/dspace/bitstream/10631/50026>.
- 6) 内閣府：「公助の限界」と自助・共助による「ソフトパワー」の重要性：  
[http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h26/honbun/0b\\_5s\\_01\\_00.html](http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h26/honbun/0b_5s_01_00.html)

## 2．研究の目的

本研究では、平成 26-27 年度、災害時に在宅療養を行いながら避難生活を送る療養者・介護者、および担当の訪問看護師を対象とした面接調査から災害時の在宅療養者に対する看護支援モデルを構築してきた。本研究では最終目標を震災関連死の低減を目指し、次の段階として、構築してきた看護支援者モデルを研究の基盤とした災害時相互協力をを用いて、訪問看護ステーション同士のネットワークづくりを行い、災害時に備える。また、災害の規模や全サイクルにおいて、在宅療養者のニーズに対応できる訪問看護師の人材育成のためのシステム構築を目的とした。

## 3．研究の方法

- 1) アクションリサーチ
- 2) 研究対象は避難生活を余儀なくされた在宅療養者を支援する訪問看護師とした。
- 3) 研究の手順

訪問看護師を対象とした研究会開催し、支援者モデルについて災害時の実現可能性を検討した。

構築した看護支援者モデルを被災地の訪問看護ステーションにおいて実践・検証を行った。

訪問看護師の看護支援者モデルが行う訪問看護ステーション同士のネットワークづくりとして「災害時相互協力」を締結し、お互いに支え合うシステムを構築し、評価した。

## 4．研究成果

雑誌論文 (4 件 うち査読あり 4 件、オープンアクセス 4 件) 学会発表 (31 件) 図書 (5 件)

また、研究成果のまとめとして、冊子「3.11 の教訓を活かした知恵袋」、東日本大震災 (3.11) の教訓を活かした訪問看護の知恵袋 改訂版として水害 & COVID-19 等感染症対策バージョンを作成し、全国の希望する訪問看護ステーションや被災地域に配布した。

さらに、防災カルタを作成して訪問看護師の災害時の教育システムの一助に寄与している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 齋藤正子	4. 巻 3
2. 論文標題 福島第一原子力発電所事故により避難を余儀なくされる療養者への看護支援者モデルの構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本伝統医療看護連携学会	6. 最初と最後の頁 135 ~ 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34511/jstn.3.2_135	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花房 八智代、酒井 明子、齋藤 正子、窪田 直美、作川 真悟、佐藤 大介、朝田 和枝、曾根 志穂、金谷 雅代	4. 巻 25
2. 論文標題 緊急レポート 令和5年奥能登地震における先遣隊活動報告 石川県珠洲市	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本災害看護学会誌	6. 最初と最後の頁 77 ~ 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.7008200604	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計35件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 米澤純子、亀山直子、田原美香、齋藤正子
2. 発表標題 学生時代の元気高齢者との交流が卒業後の看護観に及ぼす効果 - 地域看護活動の視点 -
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 亀山直子、田原美香、米澤純子、齋藤正子
2. 発表標題 学生時代の元気高齢者との交流が卒業後の看護観に及ぼす効果 - 看護活動への成果 -
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田原美香、亀山直子、米澤純子、齋藤正子
2. 発表標題 学生時代の元気高齢者との交流が卒業後の看護観に及ぼす効果 ー教育への示唆ー
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 齋藤正子、佐々木喜代子、比良孝子、及川敦子、阿部美智枝
2. 発表標題 座談会「災害時の知恵袋」
3. 学会等名 第5回日本伝統医療看護連携学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 立石和子、三宮暖菜、齋藤正子
2. 発表標題 被災経験と防災、ボランティア活動への大学生の意識の関連についてー自然災害が多い地域と比較的少ない地域の比較ー
3. 学会等名 第25回日本災害看護学会年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 弘川摩子、桑鶴由美子、齋藤有子、中筋知美、西未知子、齋藤正子、増野園枝
2. 発表標題 災害・新興感染症流行時に勤務する看護職への心理的支援の実際と課題
3. 学会等名 第25回日本災害看護学会年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 花房八智代、酒井明子、齋藤正子、窪田直美、作川慎吾、佐藤大介、朝田和枝、曾根志保、金谷雅代
2. 発表標題 令和5年5月石川県能登半島地方を震源とする地震に対する活動報告
3. 学会等名 第25回日本災害看護学会年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松岡千代、小原真理子、齋藤正子、花房八智代、松木優子
2. 発表標題 まちの減災ナース指導者の現状と展望
3. 学会等名 第25回日本災害看護学会年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、花房八智代、住山結香
2. 発表標題 「まちの減災ナース指導者」研修とその活動を通じた人材育成 ー地域に根差した減災活動への目覚めとこれからー
3. 学会等名 第28回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、花房八智代、住山結香
2. 発表標題 「まちの減災ナース指導者」養成研修の意義とプログラムの汎用性ー立ち上げから今までの取り組み、そして今後の課題ー
3. 学会等名 第28回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤田藍津子、齋藤正子
2. 発表標題 放課後等デイサービスにおける 実践に対する看護師の困難の検討
3. 学会等名 日本小児看護学会第32回
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 六反勝美、齋藤正子
2. 発表標題 オンラインカンファレンスで実習を行った実習指導者のリフレクションからの気づき
3. 学会等名 第26回日本看護管理学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、松岡千代、花房八智代
2. 発表標題 学会企画：「学会認証「まちの減災ナース指導者」養成研修 修了生の活動「ヒト」・「モノ」・「コト」の視点から語る」
3. 学会等名 第24回学会日本災害看護学会年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤智子、小原真理子、齋藤正子、齋藤麻子
2. 発表標題 ワークショップ、防災ゲーム「クロスロード」でコロナ禍でもできる減災について考える - 体験しよう！今さら聞けない基本的なZOOM操作 -
3. 学会等名 第24回学会日本災害看護学会年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田藍津子、齋藤正子、立石和子
2. 発表標題 放課後ディサービスの臨床判断能力 コロナ禍で何が求められているかー
3. 学会等名 第42回看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、花房八智代、住山結香
2. 発表標題 「まちの減災ナース指導者」研修とその活動を通じた人材育成 ー地域に根差した減災活動への目覚めとこれからー
3. 学会等名 第28回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、花房八智代、住山結香
2. 発表標題 「まちの減災ナース指導者」養成研修の意義とプログラムの汎用性ー立ち上げから今までの取り組み、そして今後の課題ー
3. 学会等名 第28回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 六反勝美、齋藤正子、福島敏江
2. 発表標題 チーム支援型教育体制における新人教育担当者の実践評価と今後の課題
3. 学会等名 日本管理看護学会第25回学術大会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、花房八智代、山崎由美子、北村千章
2. 発表標題 学会企画 学会認証「まちの減災ナース指導者研修」修了生の活動－「ヒト」・「モノ」・「コト」の視点から－
3. 学会等名 日本災害看護学会第23回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、佐々木久美子、花房八智代
2. 発表標題 学会認証「まちの減災ナース指導者研修」修了生の活動－「ヒト」・「モノ」・「コト」の視点
3. 学会等名 日本災害看護学会第23回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、福田裕美、紫宇代
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症禍、動き出したまちの減災ナース指導者」、養成の今
3. 学会等名 日本災害看護学会第22回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤正子、小原真理子、紫宇代、山崎由美子、長谷川美智子、宮越幸代
2. 発表標題 令和元年台風19号における支援活動報告（台風災害プロジェクト：長野班） - 被災地内自治会との協働による活動－
3. 学会等名 日本災害看護学会第22回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山崎由美子、小原真理子、齋藤正子、田島淳子、田口多美子
2. 発表標題 台風19号東日本豪雨 長野防災における看護師の役割
3. 学会等名 日本災害看護学会第22回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、福田裕美、紫宇代
2. 発表標題 新型コロナ禍における「まちの減災ナース指導者」養成研修の学びと課題ーオンライン研修を通して
3. 学会等名 日本災害看護学会第22回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤正子、立石和子、及川敦子、比良孝子、阿部美智枝、佐々木喜代子、三澤寿美
2. 発表標題 訪問看護の災害対策「訪問看護の知恵袋」ー新型コロナウイルス感染症対策の現状と課題ー
3. 学会等名 第2回日本伝統医療看護連携学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤正子、立石和子、及川敦子、比良孝子、阿部美智恵、佐々木喜代子
2. 発表標題 ワークショップ「災害時の知恵袋カフェ：訪問看護ステーション版」
3. 学会等名 日本災害看護学会 第21回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 比良孝子、齋藤正子、佐々木喜代子、立石和子、及川敦子、阿部美智恵
2. 発表標題 「災害時の訪問看護の知恵袋」の有用性の検討 地域ケア専門職へのアンケート調査から
3. 学会等名 宮城県看護学会 学術集会 第13回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤正子、朝田和枝、根岸京子、登谷美知子、大場久美、杉山清美
2. 発表標題 西日本豪雨災害、NPOにおける継続的な支援活動と課題－第三報 第二次避難所における「食」の支援の現状と課題－
3. 学会等名 日本災害看護学会 第21回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、松木優子、芹口順子、高田昭彦
2. 発表標題 西日本豪雨災害、NPOにおける継続的な支援活動と課題－第一報 緊急支援における地元看護職との連携の実際とその要因－
3. 学会等名 日本災害看護学会 第21回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木久美子、齋藤麻子、松岡千代、山崎達枝、齋藤正子、小原真理子
2. 発表標題 西日本豪雨災害、NPOにおける継続的な支援活動と課題－第四報 仮設住宅集会場における健康相談内容の分析－
3. 学会等名 日本災害看護学会 第21回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小原真理子、齋藤正子、福田裕美、黒田梨絵、三澤寿美
2. 発表標題 学会認証に向けての「まちの減災ナース指導者」要請研修の実際と今後の課題
3. 学会等名 日本災害看護学会 第21回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤正子
2. 発表標題 災害により長期に避難生活を余儀なくされる療養者への看護支援者モデルの構築
3. 学会等名 日本災害看護学会 第20回 年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤正子、比良良子、阿部美智枝、及川敦子、佐々木喜代子 他4人
2. 発表標題 3.11の教訓を活かした訪問看護の知恵袋
3. 学会等名 日本看護学学会（在宅看護）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木喜代子、比良良子、及川敦子、阿部美智枝、齋藤正子 他4人
2. 発表標題 訪問看護ステーションにおける終末期の療養場所の意思決定ACP
3. 学会等名 日本看護学学会（看護管理）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木喜代子、比良良子、及川敦子、阿部美智枝、齋藤正子他4人
2. 発表標題 利用者の入院後の転帰から考える訪問看護の関わり
3. 学会等名 東北緩和医療研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 齋藤 正子 , 藤田 藍津子 , 齋藤 麻子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 伝統医療看護連携研究 1(1), 30-40, 2020	5. 総ページ数 11
3. 書名 災害復興のレジリエンス: ~東日本大震災と平成28年熊本地震における被災者支援の実態~	

1. 著者名 齋藤 正子, 立石 和子, 及川 敦子, 比良 孝子, 阿部 美智枝, 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 伝統医療看護連携研究 2(1), 8-8, 2020	5. 総ページ数 8
3. 書名 訪問看護の災害対策"訪問看護の知恵袋" - 新型コロナウイルス感染症対策の現状と課題 -	

1. 著者名 齋藤正子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清泉女学院大学看護学研究紀要 = Seisen Jogakuin College Journal of Nursing 1(1), 17-26, 2021-03-31	5. 総ページ数 8
3. 書名 長期避難を余儀なくされる療養者への看護支援者モデルの構築	

1. 著者名 小原 真理子, 齋藤正子, 福島 俊江, 大塚 由希, 山崎 由美子, 紫 宇世, 藤澤 美和子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本災害看護学会誌	5. 総ページ数 4
3. 書名 COVID-19禍における学会認証 「まちの減災ナース指導者」としての役割や活動の動機づけ (緊急レポート COVID-19災害プロジェクト)	

1. 著者名 小原真理子、酒井明子、齋藤正子、板垣知佳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 10
3. 書名 災害看護 心得ておきたい基本的な知識	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小原 真理子 (Ohara Mariko) (00299950)	京都看護大学・看護学部・教授  (34327)	
研究分担者	三澤 寿美 (Misawa Sumi) (10325946)	東北福祉大学・健康科学部・教授  (31304)	死去により、研究分担者辞退あり。
研究分担者	立石 和子 (Tateishi Kazuko) (80325472)	産業医科大学・産業保健学部・教授  (37116)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------